



「短歌を学んで

短冊を書こう」

優秀作品発表!

先日、創学舎の各教室で七夕イベントを開催致しました。今年度は、短歌に願い事をこめる。」というイベントでした。小学生には、少し難しいかな……? という心配をよそに延べ百三十首の素晴らしい短歌を小学生のみなさんが書き上げてくれました。日本語の言葉の素晴らしさを、イベントを通して感じ取ってくれたことと思います。

創学舎では、国語の授業の一貫として、「百人一首」の暗唱も行っております。ぜひ、みなさんもこの夏休みにはたくさん覚えて素晴らしい日本語を身につけてください。

創学舎 短歌審査委員会 審査委員長 関野光希子

特選(一名)

争いや 戦争なくし めざすのは

みんな笑える 平和な世界

柏教室 小学六年 後藤幸太郎くん

【受賞者 後藤くんの喜びの声】

多くの短歌が選ばれるなんて驚きです。本当にありがとうございます。

柏教室長 五日市浩より

普段から話題が豊富ですが、視野も心も想像以上に広くて感動しました。

金賞(二名)

おばあちゃんの 病気が早く 治るかな

元気な姿を 私は見たい

柏教室 小学六年 小澤咲希さん

【受賞者 小澤さんの喜びの声】
書いた後におばあちゃんが退院できたのでうれしかったです。

柏教室長 五日市浩より

本人の普段の優しさが伝わってきます。

友達と 夜空にうかぶ 金や銀

大輪の花 目に焼きつける

柏教室 小学六年 栗原直幸くん

【受賞者 栗原くんの喜びの声】

多くの中から選んでいただきうれしいです。自分が友達と火花を見たい思いを書いたら選ばれたので、一層うれしく感じました。

柏教室長 五日市浩より

叙情的で情緒的。描写力に吸い寄せられます。

銀賞(二名)

十年後 あつという間に 成人だ

夢へ向かって 歩んでいくよ

柏教室 小学六年 新藤南渡くん

【受賞者 新藤くんの喜びの声】

短歌を考えていたときは常に未来を想像していました。

柏教室長 五日市浩より

こちらが思う以上に、内面的に深化・成長していることに驚きました。

なくしたい 悪い考え 使う人

この世に楽しい 世界がある

新柏教室 小学五年 土方奨くん

【受賞者 土方くんの喜びの声】

銀賞をとって、うれしかった。ありがとうございます。

新柏教室長 松尾裕史より

普段はもの静かな土方君が大人顔負けの歌を詠むので、驚いています。受賞おめでとう。

人生を 一步一步と 歩く自分

今の自分で 生きていいのか

新松戸教室 小学五年 高橋克弥くん

【受賞者 高橋くんの喜びの声】
僕の短歌が銀賞をとるなんて思わなかったから、嬉しいです。

新松戸教室長 村田寛より

哲学的な内容で非常に驚きました。深いですね。

銅賞(五名)

これまでの 過去を見直し これからの

未来へ向かい 前へ進もう

柏教室 小学五年 山室勇翔くん

【受賞者 山室くんの喜びの声】

初めて短歌の受賞に選ばれてすごくうれしいです。

柏教室長 五日市浩より

大人顔負けの姿勢。個人的にも胸に刻もうと思います。

妹と けがなく学校 行きたいな

思い出になる 学校生活

新柏教室 小学六年 丸山明音さん

【受賞者 丸山さんの喜びの声】

お知らせを聞いて、ビックリしましたが、とてもうれしかったです。

新柏教室長 松尾裕史より

優しいお姉さんとしての心が歌の中に表れていて心が温かくなりました。受賞おめでとう。

インド行き ゾウさん乗って 遊びたい

大人になって 行ってみたいな

新松戸教室 小学三年 吉田佳也乃さん

【受賞者 吉田さんの喜びの声】

選ばれて嬉しいです。

新松戸教室長 村田寛より

非常に夢のある内容ですね。実現できるといいですね。

別れの日 待ち受けていたこの瞬間

涙があふれ出て 悲しいときぞ

江戸川台教室 小学五年 出口杏月さん

【受賞者 出口さんの喜びの声】
百人一首で学んだかいがありました！

江戸川台教室長 長坂浩之より

独創性のある出口さんらしい一首！

優勝し 楽しい一年 過(こ)そうと

神様どうか 力貸してよ

パーソナル我孫子教室 小学六年 小田優くん

【受賞者 小田くんの喜びの声】

選ばれてちよつとうれしいです！

パーソナル我孫子教室長 松永弘文より

一年間の努力が実るといいですね。

勉強を楽しく

夏休みが始まり、受験生は志望校合格のため、日々勉強に励んでいることだろう。しかし、勉強を楽しいと感じて取り組んでいる人は少ないと思う。なぜなら、世の中にはたくさん楽しいことがあるからだ。例えば、ゲーム。ゲームは非現実世界にすぐ入り込むことができ、ゲームをクリアすることで簡単に達成感が得られる。そして、スマホ。スマホは、ゲームもさることながら、SNSで不特定多数の人間とやり取りができるため飽きず、また自分を承認してくれる人間も多数存在するので、自己欲求を満たすためにスマホが手放せなくなる。そのような子供たちを魅了するたくさんのツールがあるこの世の中で、勉強に楽しみを見出すことはかなり難しいと思う。しかし、やらないと成績はどんどん下がり、志望校合格という夢を叶えることができずに終わってしまうだろう。だから、大半の子供たちは、やりたくない気持ちを抱えつつ勉強に取り組んでいるのだと思う。



しかし、そんな気持ちを抱えながら取り組んでいるのは、成果は出ないだろう。ましてや、暗記科目である社会では、ほとんど作業(覚えずにただ書いていくだけ)になってしまう。せっかく勉強したのに成果が出ていないのでは、さらに勉強が嫌になる。では、どうすれば良いか。それは、勉強を楽し

むことである。先ほど言っていたことと矛盾しうであるが、そうではなく、取り組み方に少しゲーム性を入れて、楽しく勉強していこうということだ。例えば、社会の一間一答のページを行う際に、全問正解出来たら次のページへ進む、しかし、一間でも間違えたら再度、同じページを全問解く。このように自らクリア条件とペナルティーを決める。そうすることで、少し緊張感が出て、集中力が高まる。そして、取り組んでいくと、初めは中々全問正解できず、辛いときもあるが、それが長ければ長いほど、全問正解出来たときの達成感は大きなものになる。その達成感が得られれば、またその達成感を味わいたくて勉強したくなるだろう。

今、挙げた例は、私が学生の頃に取り組んでいたやり方である。このやり方が正しいやり方とは思わないが、私には合っていたのだろう。なぜなら、午後十時から始めた勉強が、気づいたら明け方になっていたということがしばしばあった。この時期どうしても勉強に身が入らないと思っている方は、ぜひ試していただきたい。勉強のやり方に少しアレンジを加えることで、今まで辛かった勉強が楽しくなり、やり続けることができるだろう。そして、本来の勉強の楽しさに気付けるはずだ。(矢上)

「本は読め終わってからも、始まりました。仕事は失敗してしまいましたが、始まりました。」

●毎月、創学舎ニュースをお読みいただきました。誠にありがとうございます。お読みいただいた方を少しでも勇気づけられれば、と思っております。今後とも創学舎と共に創学舎ニュースをよろしくお願いたします。

●この八月、就職活動中の大学生を町で見かける。この暑い最中、スーツに身を包み、急ぎ足で通り過ぎる。みんな自分に合った仕事を探すために必死である。実は私の大学時代の同級生も専ら就活中である。彼は会社から退職勧告されてしまった。今回は、そんな彼や就職活動中の大学生、今年新入社員として働き始めた方、または、仕事をされている方や近い未来に仕事に就くであろう



君たちに向けて、この創学舎ニュースを通してエールを送りたい。

●私の友人の中にもいろいろな仕事をしている方が大勢いる。会社員に始まり、弁護士、モデル、ラーメン屋の店員、看護師、コンビニの店長、薬剤師、そば職人、医者、学校の先生、CA、郵便局員、国会議員、おもちゃ屋、ネイリスト、カフェ店員、デザイナーなど……。その友人たちから仕事についての話を聞かせてもらおう。みんなが口を揃えて言う。仕事って、勉強と似ていて、大変で、辛くて、やめたいって思うことがたくさんある。しかし、たまに面白いことや楽しく感じることがあり、その瞬間に幸せな気分になる。

●私の友人が茨城県にあるK鉄道株式会社で働いている。その彼が新入社員のとときに体験した話である。ある日、研修のために先輩のバスの運転手とバスに乗っていたときのことだ。赤ん坊を抱いた女性がとあるバス停から乗車した。するとバスが走行中に赤ん坊が泣きだしたそう。その際に、何名かの乗客から「赤ん坊、うるさいんだぞ……」「ちよつと静かにさせてもらえない。」という声が出たそう。その母親が有めてもなかなか泣き止まないこともあり、バスを降りようとした。



そのときに、先輩の運転手がマイクを持って、こう言ったそう。「乗客の皆さま、ご乗車ありがとうございます。赤ん坊を抱いたお母さまが泣き声の止まない赤ん坊が迷惑をかけているのでバスを降りようとなさっています。子供は泣きます。赤ん坊は泣くのが仕事です。どうぞ皆さま、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せてあげてください。」ほんの数秒が過ぎたとき、一人の男性が声をかけた。「この席に座ってください。」若いお母さんはバスを降りる際に運転手や乗客に何度も何度も頭を下げていたそう。どうしてそんなことができたんですか。と……。その質問に「昔、同じような乗客をバスから降ろしてしまっただ。バスの運転手失格……。そんな罪悪感を引きずったまま仕事をしている際に同業者のエピソードを耳にした。それを真似ただけだ。」と。それを

を真似たことよりも行動に移すことができたことが凄いなことだ。」と私の友人は話しており、彼の目標とする先輩のひとりだそう。仕事をするに誰だって失敗する。「失敗しない人間はいない。ただ、その失敗とどう向き合うかが人間を大きく分けるのではないか。」と思う。勉強や部活も同じではないか。

●私は仕事や勉強をしていて、難題にぶつかったり、失敗したりしたときの対処法を持っている。人づてに聞いて実践しているのだが、ある言葉を口にする。それはひとこと、こうつぶやく。「面白くなってきたぞ。」そう口にする、さっきまで抱えていた難題や失敗を前向きに受け入れられるような感じがする。気のせいかもしれないが、仕事をする人は何かしらそういうものを持っているような気がする。

●大きくても三十センチほどのヤマメと、その倍もあるサクラマスが、もともとは同じ魚だということをご存じだろうか？川での生存競争に敗れたヤマメの一部が、餌を求めて海へと下り、餌が豊富な海を回遊するうちに大型化したのがサクラマスなのだそう。そのときは負けたように思えても、自分で自分に見切りをつけなければ、人生に「負け」なんてものは存在しない。人と競うのではなく、できることから少しずつ努力を重ね、昨日の自分よりもちよびつとだけでも成長しようと思える。そうすれば、いつの間にか、サクラマスのように大きくなっていくはずだ。そんなサクラマスに似たエピソードをひとつ……。

●ある漫画家志望の十七歳の若者がいた。彼は短編漫画の準入選に選ばれて、九州から東京に上京した。彼はやつと有名になれると思っただけ。しかし、現実はその甘くはなかった。作品を投稿しても、全然連載には至らない。描いてもボツになる。一週間で十九ページも描くという事は、普通の人間にできる技ではない。漫画家になるべくして生まれた人にか……。描いてもボツになる。描いてもボツになる。描いてもボツになる。描いてもボツになる。描いてもボツになる。描いてもボツになる……。ついに、彼は倒れて一週間程、動けなかった。



「もう漫画家になることを諦めよう。サラリーマンに今からなる……。」と。

●でも、そのとき、喧嘩ばかりしていた当時の担当編集者がこう言葉をかけてくれたそう。「こんなに頑張ってる、報われなかった奴を俺は今まで見たことがない。必ず報われる日が来る……。そのときを信じて、今はペンを握るしかない。」その言葉に彼は病院のベッドで泣いたそう。「俺はまだ、頑張れるぞ。」気が沸いてきた。その彼の姿が登場人物の主人公にも重なる。彼の名前を尾田栄一郎という。作品名：「ONE PIECE (ワンピース)」

●人生のシナリオは、ギリギリまで頑張ると、それでも結果は出なくて、「もう、ダメだ。」と力尽きるその瞬間に、あなたの人生を一変するシーン(名場面)と出会うようになっていっているのではないだろうか。

●仕事を続けるって、本当に大変だ。仕事に対して、それだけ一途で、本気であればあるほど、誰だって仕事をしていると、やめなくなる時がある。その仕事が終わらずに終わってしまうこともある。だけど、そこで仕事をやめたくてもやめずにギリギリのところまで死にも狂いで頑張ることが必要だとも思う。

●あなたが選んだ仕事は第一志望ではないにしても、あなた自身が職業の中から、あなた自身がひとつ選んだ職業だ。職種に関係なく、正規社員だろうが、契約社員だろうが、アルバイトだろうが、パートだろうが、そんなのは関係ない。自分がこれだと思える仕事を張って真摯に働くこと、それこそが仕事だと思おう。自分がする仕事を世界一にするかどうかは【あなた自身】にかかっている。私はあなたがする仕事に、苦しくても辛くても心から楽しいと感じる仕事であってほしいと願う。

●今日も事務の方から、私に声がかかる。「松尾先生、早く出欠簿を出してください……！」松尾はつぶやく。「面白くなってきたぞ。」(松尾)

▼▲継続希望の方へ▲▼
 ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
 ▶在籍していた教室までご連絡ください。